



大会途中で棄権したり、
救護を要する時は…

  大会本部（Central Site）
救護（First Aid）

TEL 080-8506-5200

この電話は大会当日のみ有効です

よどしてい

3. 吉年邸のくすのき



写真提供：大阪観光局

クスノキは、双子葉植物で、クスノキ科の常緑高木である。本州の関東南部以西から四国・九州・台湾・中国などの暖地に広く分布する。5、6月に葉のわきから穂を出し、多数の六弁の小花をつけ、果実は球形で10、11月に黒く熟す。このクスノキは、樹高約20メートル、幹囲約4.7メートルを測る巨木で、河内長野市指定の天然記念物となっている。なお、クスノキは河内長野市の「市の木」である。

えぼしがたはちまんじんじゃ

6. 烏帽子形八幡神社



烏帽子形八幡神社は烏帽子形城跡の東斜面に鎮座する。本殿は、石川八郎左衛門尉が文明12年（1480）に建立したものであり、国の重要文化財に指定されている。屋根は、入母屋造檜皮葺であり、規模は桁行三間、梁間二間となっている。柱は円柱で、側面後端に脇障子を設け、木部は朱塗となっている。正側面三方に縁を設け、擬宝珠付きの高欄をめぐらしている。主祭神は素盞鳴命、足仲彦命、神功皇后、応神天皇である。

（1480）に建立したものであり、国の重要文化財に指定されている。屋根は、入母屋造檜皮葺であり、規模は桁行三間、梁間二間となっている。柱は円柱で、側面後端に脇障子を設け、木部は朱塗となっている。正側面三方に縁を設け、擬宝珠付きの高欄をめぐらしている。主祭神は素盞鳴命、足仲彦命、神功皇后、応神天皇である。

たかむこのくろまるこうけんしょうひ

9. 高向玄理公顕彰碑



高向玄理は、本市高向地区の出身と言われる飛鳥時代の政治家・学者である。遣隋使とともに隋へ渡り、留学し、帰国後に国博士として活躍した。この顕彰碑は、高向玄理公顕彰会により多くの有志の寄付によって平成26年12月に建立されたものである。

この顕彰碑は、高向玄理公顕彰会により多くの有志の寄付によって平成26年12月に建立されたものである。

12. 天野山 金剛寺



平安時代の末に、高野山の僧侶である阿観上人が再興した由緒ある寺院である。本尊である木造大日如来坐像、木造不動降三世明王坐像をはじめとする国宝5件の他、多数の重要文化財、その他の文化財がある。金堂・多宝塔をはじめとする中心伽藍に建つ建物の多くは中世のもので、またほとんどが国の重要文化財に指定されている。中心伽藍の周囲にも広大な境内が広がり、かつては80もの子院が存在していたことが明らかになっており、その様子は境内都市ともいわれる。

平安時代の末に、高野山の僧侶である阿観上人が再興した由緒ある寺院である。本尊である木造大日如来坐像、木造不動降三世明王坐像をはじめとする国宝5件の他、多数の重要文化財、その他の文化財がある。金堂・多宝塔をはじめとする中心伽藍に建つ建物の多くは中世のもので、またほとんどが国の重要文化財に指定されている。中心伽藍の周囲にも広大な境内が広がり、かつては80もの子院が存在していたことが明らかになっており、その様子は境内都市ともいわれる。

【拝観料】伽藍：大人200円、小学生100円
本坊：大人400円、小学生200円
※大人のみ伽藍本坊共通券（500円）あり

1. 中村池公園



河内長野駅から徒歩5、6分の場所にあり、周囲は閑静な住宅街となっている。昭和33年頃まで、この場所に中村池という池があり、それを埋め立てて現在の公園がつけられた。

4. 長野神社



江戸時代まで「木屋堂宮」と呼ばれており、東西の高野街道の合流地点にあった町場であったと考えられる。境内には、室町時代後半期に建てられた本殿が国の重要文化財となっている。祭神として素盞鳴命、事代主命、菅原道真が祀られている。毎年10月に行われるタイマツタテ神事は、巨大な松明が境内につくられる珍しい神事であり、市指定の無形民俗文化財となっている。

えぼしがたじょうあと

7. 史跡 烏帽子形城跡



烏帽子形城は、伝説では楠木正成が築城した七城の一つであるとされる。しかし、発掘調査で確認されている最も古い遺物は15世紀のものであり、古文書に登場するものこの頃である。室町時代の管領家で河内守護であった畠山氏の内紛に関する合戦にしばしば登場し、その後は織田信長の城ともなった。以後、宣教師が遺した文書にもこの城のことや、付近に多くのキリシタンがいたことが記録されている。城跡内にある高い土塁や深い横堀は一見の価値がある。

室町時代の管領家で河内守護であった畠山氏の内紛に関する合戦にしばしば登場し、その後は織田信長の城ともなった。以後、宣教師が遺した文書にもこの城のことや、付近に多くのキリシタンがいたことが記録されている。城跡内にある高い土塁や深い横堀は一見の価値がある。

10. 道の駅「奥河内くろまるの郷」



写真提供：河内長野市教育委員会

「奥河内」とは、河内長野市を中心とする自然豊かな地域をアピールするためにつくられた名称で、道の駅「奥河内くろまるの郷」には、河内長野市の魅力を発信する情報案内コーナーが設けられた「奥河内ビジターセンター」があり、地元の食材を活用したパン・ジュース工房、特産品販売コーナーも併設されている。敷地内には、地元の新鮮な農産物を使った料理を楽しめる「ビュッフェレストラン奥河内」やJA大阪南が運営する農産物直売所「あすかてくるで」河内長野店もある。

「奥河内」とは、河内長野市を中心とする自然豊かな地域をアピールするためにつくられた名称で、道の駅「奥河内くろまるの郷」には、河内長野市の魅力を発信する情報案内コーナーが設けられた「奥河内ビジターセンター」があり、地元の食材を活用したパン・ジュース工房、特産品販売コーナーも併設されている。敷地内には、地元の新鮮な農産物を使った料理を楽しめる「ビュッフェレストラン奥河内」やJA大阪南が運営する農産物直売所「あすかてくるで」河内長野店もある。

13. 塚穴古墳



塚穴古墳は河内長野市上原町に所在する。横穴式石室を持つが、石室自体は昭和60年度の調査によって、近世に再構築されたものであることが確認されている。石室内からは、多くの石造物、蔵骨器、土器、陶磁器、銅銭（永楽通宝、寛永通宝）が出土している。

2. 東・西高野街道合流地点



京から出発して生駒山の西麓を南下して南河内に入り本市へ至るルートの東高野街道と、堺の大小路から出発して、河内・和泉の国境に沿って南下し本市に至るルートの西高野街道が合流する地点である。中世には木屋堂とよばれる町場があり、高野詣での中継地として栄えた。少し北へいった場所には高野山まで九里を示す道標が移築されている。

5. 西條合資会社旧店舗（天野酒）



写真提供：大阪観光局

幕末期ごろに建築されたと考えられる造り酒屋の旧店舗である。つし2階建て、2階には虫籠窓をつらねている。外観は土壁に覆われている。現在、国の登録文化財となっており、飲食店としても活用されている。なお、西條合資会社で醸造される銘酒「天野酒」は、もともと天野山金剛寺で醸造されていたもので、織田信長や豊臣秀吉もこの酒を好み、秀吉は金剛寺に、良酒専念を命ずる「朱印状」を下付している。

8. 河内長野市立ふるさと歴史学習館



写真提供：河内長野市教育委員会

河内長野市内の文化財を展示し、市の歴史について解説する施設である。年間3回ほど企画展示を行っており、当日は高野街道をテーマとして企画展示を行っている。市内各遺跡から出土した考古資料や市内の旧家から寄贈された民俗資料が充実している。この他、勾玉づくり、ミニ石包丁づくり、紺屋の型紙しおりづくりなどのワークショップも体験することができる。入館無料（勾玉づくりなどの体験は有料）

市内各遺跡から出土した考古資料や市内の旧家から寄贈された民俗資料が充実している。この他、勾玉づくり、ミニ石包丁づくり、紺屋の型紙しおりづくりなどのワークショップも体験することができる。入館無料（勾玉づくりなどの体験は有料）

たこうじんじゃ

11. 高向神社



高向神社には、慶長13年（1608）に建立された本殿があり河内長野市の指定文化財となっている。三間社切妻造で屋根は檜皮葺で、千鳥破風と唐破風を正面に掲げている。素盞鳴尊をはじめ、多くの神様を祀っている。本殿の他に本殿内陣に祀られている男神像・女神像、拝殿にある高向神社祭礼図絵馬も河内長野市の指定文化財となっている。また、秋の祭礼には、市指定無形民俗文化財の日野地区獅子舞が奉納される。

高向神社には、慶長13年（1608）に建立された本殿があり河内長野市の指定文化財となっている。三間社切妻造で屋根は檜皮葺で、千鳥破風と唐破風を正面に掲げている。素盞鳴尊をはじめ、多くの神様を祀っている。本殿の他に本殿内陣に祀られている男神像・女神像、拝殿にある高向神社祭礼図絵馬も河内長野市の指定文化財となっている。また、秋の祭礼には、市指定無形民俗文化財の日野地区獅子舞が奉納される。

にしたいじんじゃ

14. 西代神社



創建年は不詳であるが、南北朝時代に南側の諸將に崇敬されていた神社であったと伝えられている。かつては、西代大明神と呼ばれたが、明治時代に西代神社となった。祭神は、国常立尊、素盞鳴尊、足仲彦命（仲哀天皇）、息長足比売姫命（神功皇后）、品陀別命（応神天皇）、武内宿禰命、菅原道真公である。毎年10月には伊勢大神楽の系譜をひく市指定無形民俗文化財の西代神楽が古式にのっとり奉納される。

にしたいはんじんやあと

15. 西代藩陣屋跡



河内長野市遺跡調査会報 Ⅲより転載

河内・西代藩とは、延宝7年（1679）に近江・膳所藩から分かれた藩で、石高は1万石であった。陣屋（藩庁）は、現在の長野小学校・長野中学校一帯にあった。これを顕彰して長野小学校の正門は陣屋の門風に造られている。初代藩主本多忠恒、2代藩主忠統と2代にわたり続いた。2代藩主の忠統は、大番頭・寺社奉行・若年寄と幕府の要職に就き、享保17年（1732）に伊勢・神戸へと移封になり、西代陣屋は廃された。